

北杜市立小中学校適正規模等審議会 会議録

1. 会議名：第10回 北杜市立小中学校適正規模等審議会

2. 日 時：平成21年2月19日（木）午後1時30分～

3. 場 所：北杜市役所 東館特別会議室

4. 出席者：

（委員）小澤龍一会長・小泉 徹副会長・堀内 弘委員・藤原香代子委員  
仲澤功允委員・三井善成委員・小尾隆一委員・清水正之委員  
原 誠委員・中山英毅委員・原 堅志委員・大柴美香委員  
小宮山英人委員・由井峰雄委員・大島正道委員・小澤三月委員  
日向 勝委員

（事務局）井出教育長・小林教育次長・進藤教育総務課長・伊藤学校教育課長・  
原生涯学習課長・野牛嶋教育総務担当リーダー・中込学校教育担当リ  
ーダー・野口教育総務担当・大町教育総務担当

5. 議 題 1) 議事録署名人の指名  
2) 資料の確認  
3) 中学校適正配置について  
4) その他

6. 傍聴人の数：5名

—13時33分開会—

（事務局） 開会に先立ち互礼をしたいと思います。

—互礼—

（議長：小澤会長） 本日は傍聴希望者が5名おりますがよろしいでしょうか。

（委員全員） 異議無し

—傍聴者5名入室—

（議長：小澤会長） 議事に先立ち、議事録署名人の指名を事務局でお願いします。

（事務局） 議事録署名人の指名をさせていただきます。今回は由井委員と小澤三

月委員にお願いします。

(議長：小澤会長) 事務局から資料の確認をお願いします。

(事務局) 事前に送付した資料が第9回の議事録、市内の中学校の現況として各学校の生徒数と施設の状況とクラブ活動の状況、本日の資料として北杜市立小中学校適正規模等に関する答申(案)の目次、この3点が今回の資料です。

(議長：小澤会長) 今日は中学校の適正配置が議題になっています。前回のまとめでも話しましたが、中学生は小学生と違い生徒という呼び方に変わり、多くの人達に守られて育つ小学生と、自立する段階に来た中学生の違いを示しています。自立するための環境を整えるために、教科を中心とした教師の配当が求められ、生徒同士がもまれ自分の特性が発揮されるクラブ活動も重要となります。この二点が保証できる中学校にするにはどうしたら良いかを慎重に論議願います。

(委員) 先日PTAの会議の際、小学校については1校ないし2校でほぼ答申内容が固まったという話をしたところ、基本的には旧町村に1校は欲しいということでした。しかし、中学校についてはそうはいかず、通学区域やクラブ活動、特に白州では伝統あるバレエ部が休部になっており、なんとかしなければならぬ現状から統合せざるを得ません。では、具体的にどうするのかですが、この審議会でも単純な数字の羅列から3校か4校かという意見しか出てきていません。新しい北杜市の地域づくりは、新しい中学校が突破口になって進んで行くのではないかという話をPTAの皆さんにしました。

(議長：小澤会長) 他の意見はどうでしょうか。

(委員) 中学校の場合、現時点での生徒数の推定はある程度できます。人数だけで言えば市内に中学校は2校か3校あればいいようですので、韮崎市のようになることも考えられます。現状では高根や長坂の規模であれば、教員もいますしクラブ活動もできますが、白州、武川、泉、明野、須玉についてはこれ以上減少していくとクラブ活動はできませんし教員数もとれません。ですから今すぐかは別として、中学校は統合せざるを得ないだろう、子供達のためにする必要があるだろうと考えます。ひとつ気になっているのは、既存の校舎では市内を2校にしても現在の生徒が入りきれぬ校舎がありません。建物についてはまだ新しい長坂中や小淵沢中、明野中を使うのでしょうか。それとも新しく建てた校舎であっても場合によっては使用しないことができるのでしょうか。

(事務局) 原則的には既存の小中学校の校舎を使用するようお願いします。市内には25の小中学校があり、例えば小学校を中学校として使用することも可能です。廃校になった校舎は次の利用方法を検討し、耐震に問題があれば新地にすることもあると思います。全く新たに

土地を購入し学校を建てることは考えたくありませんので、既存の敷地や校舎を活用するようにお願いしたいと考えています。

(委員) 適正規模には学校規模、学級規模があると思います。学校規模では何学級必要なのか、学級規模は何クラス以上がいいのかを、生徒会活動や部活動などを考慮したなかで検討していけばと思います。

(議長：小澤会長) 中学校も小学校同様、適正規模は同じ20人以上2クラス以上ということだと思います。

(委員) わかりました。クラブ活動ですが資料にある部は全ての学校に存続しているのでしょうか。

(事務局) この表に書かれているとおりです。但し、カッコ書きされている人数は重複して所属しているということです。武川についてはバレエ男女、軟式野球、吹奏楽しか存続しておりません。生徒数が多ければ長坂、高根のように部活動ができることとなります。

(委員) 武川については人数が少なく部活動はとても大変だろうと思います。各学校の現状は部活動だけをみても明らかだと思います。

(議長：小澤会長) 我々の中学時代を振り返りますと、クラブ活動でこの中学校と対抗し勝つか負けるかはとてもインパクトが大きく、活気を維持する要因でもありました。同じ市の中でほとんど活動できない、他校と交流できない状況があることを認識して頂ければと思います。

(委員) 数字的にということで、事務局で提示していただいた人数を集計してみました。現時点、平成20年度の生徒数が1,300人ちょっと、5,6年後が1,100人ちょっと、約10年後が1,100人弱ではないかと思います。そういう数であるとすれば、長坂中、高根中のような中規模の学校を基準に考えると現在約300人弱です。葦崎の場合は約500人で、1学年5クラスですが、2校であればその位になると思います。

20人以上で1学年2クラスが適正規模だと言われましたが、そこで心配になることは2クラスで3学年だとすると全校で6学級。6学級とすれば中学校に配当される職員数は教頭も含めて10名です。教科は10教科だったと記憶しておりますので、教科の数と職員数を見ると若干問題があるのではないかと思います。主要教科と言いますとちょっと言葉に問題がありますが、英数国は手厚くということで、2人の先生の体制にしたいという事になればどうしても他の教科、芸能教科などが薄くなって行くので、今日まで市内の何校かの学校は悩んできた現状があるのではないのでしょうか。

あと部活動の問題ですが、中学校が現在とても苦しんでいることはやりたい部活動ができないことです。小学校でいろいろなスポーツ少年団でやってきても、中学校に行ってから部活動として継続できないということで、北杜市全体でクラブチームに所属して学校の

部活動に出ないという話もあります。全体的にすべてを解決するというわけではないが、子供達の要望もある程度聞き取れるような形でクラス数を検討した方がいいのではないのでしょうか。

しかし、優先順位とすれば職員が適正に配置されることがメインで、その後に生徒の数を検討すべきではないかと思います。5, 6年後には1, 100人ちょっと、10年後には1, 000人ちょっとということになれば、非常に残念なことではありますが、高根中や長坂中みたいな規模がいいのかと思います。一度に蕪崎市のようになり500人規模になってくると中1ギャップの問題もあります。中学1年生に不登校の子供がとても多いという全国的なデータもあります。小学校サイドからしても、あるいは中学校の先生方、地域のみなさん、保護者にしても、小学校中学校の連結まで視野に入れた規模で考えていったほうがいいと思います。私としてはその三つぐらいの視点をもとにしながら、クラス数、学校全体の生徒数を考えたかどうかと思います。

(議長：小澤会長) 中学になった場合に教科指導をどうするのかということが非常に重たい課題になってきます。特に小規模校の校長を引き受ければ、まず非常勤教師を探すのに大変な苦勞をされるのではないかと思います。それが確保できなければ教科指導ができないために鉦や太鼓で探すわけです。ある程度の規模にならなければ、定数法がありますので教科をきちんと正規雇用で確保していくことが非常に難しい。一方では中学の後半から高校等々に向かっての進路が控えているために、どうしても進路を前提にした授業の組み方を考えていかなければならない、ということで本来そういう言葉を使ってはいけなけれども、主要教科に比重が置かれがちになってしまう。学校現場のサイドから見ると、非常に大きな悩みを抱えながら運営しています

(委員) 私は長い目で見れば北杜市は2校という形になっていくのではないかと思います。ただ、そこまで行くにはまだ時間がかかって、そこまでをどのような観点から3校にするのか4校にするのかという具体的な案はありません。今ここに上がってきている教科の問題、クラブ活動の問題、生活指導、進路指導等いろいろな面を含めて、最初から2校とはいきませんので、架け橋のような形の段階を一本おかないと現実的に無理ではないかと思います。

(委員) 私は中学校については現状が8町村に各1校ですので、すぐに通学区の変更というのはまだ論議を重ねないと保護者の理解を得るには時間がかかるように思います。特に合併して4年しか経っておりませんので、各地域の地域性や歴史がありますし、なかなか他の区域への編入については違和感があるのではないかと感じます。

行政に学校教育、児童生徒の医療等にも力を添えて頂いて、北杜市内の児童生徒が住みよい政策を講じて頂ければありがたいと感じています。小さい子供達が増えていくような政策、市政が望まれるところでもあります

(委員) 平成29年度の学校別の学年別児童生徒数を見ると、現状で明らかに決まっています。その中を見ますと1番生徒数が29年度に多い所が高根中学校で238名。少ない所で白州中学校の55名。武川中学校が65名ですので合わせても111名。ちょうど今の半分です。そういうなかで完全に統合しなければならないということはここにいる全員のみなさんが感じている訳です。それは答えとしてわかっていますので、中学校の適正化を思いますと今8校ありますので、少なくとも4校ぐらいに絞っていくような形をとってはどうかと思います。クラブ活動も卓球部のように少人数でするものしかできないのが現状ですので、私の考えでは8校を4校。あとは区域の制定を重点に考えていけば、教職員については後からついてくる問題だと思っています。

(委員) 私は統合するにも二段階にした方がやり易いのではないかと思います。最終的に2校にした方が良いのではないのでしょうか。まず、第一段階として出来るだけ既存の校舎を使いたいという事になれば、それほど大きく統合することは不可能であると考えます。その中で北杜市の地形、地域性と言いますか、通学しやすい地域と統廃合していくことが望ましいのではないかと考えます。

(委員) 皆さんの意見を伺ってしまして、具体的には中期的に4校、長期的に2校という意見がありますが、教職員の配置というのが一番気になります。あまり先生が少なくてもと思い、生徒数の推移を睨みながら考えてみましたが、とりあえず1学年3クラスから4クラス。学校全体で9クラスから12クラスの範囲内くらいで4校位になるとうまく纏まるのではないのでしょうか。

(委員) 中学校も義務教育ですのでそういう押さえは前提として必要ですが、やはり2校から3校に集約すべきだと思います。いろいろな皆さんの意見がありますように、現状よりも29年度には約350人、生徒数が減少します。そのことを考えつつ、3校へ統一して行くべきではないかと考えています。

(委員) 私は明野ですので明野中と須玉中は3、4年後には統合すればいいなと思っています。そこで武川、白州もそのような形で、すぐここで統合というのはちょっと考えにくいと思います。それをしてから3校とか2校という御意見が出ていますので、一端は小さい学校が3、4年後に統合してから、それからまた生徒数を把握しながら検討して、次の段階に進めばいいのではないかと私は思います。

- (委員) 中学校になりますと自立に向けての段階ですので、私はある程度割り切ったほうがいいのかと思います。ただ色々な面を考えると、やはり1度に2校だったら2校にするよりは4校くらいに絞って小さいところをまとめて、それから5年後には2校にする方法がいいかという気がします。
- (委員) 大変難しい問題だと思いながら聞いていました。私の意見としては小学校と同じ様に段階を経て8校を5～4校にして、更に考えて行くほうが良いと思います。
- (委員) 私も一気に大規模校化を進めるよりも何人かの意見にあったように2クラスが維持できなかつたら統合というように段階を踏むほうが良いと思います。朝、中学生は7時30分頃から朝の部活動があり、夜については冬が5時、夏は6時で、その後の暗くなってからの通学の安全をどう確保するかということも含めて学校の統廃合、通学区域が広がるにあたって子供の安全をどう確保するかを一緒に考えていきたいと思っています。
- (委員) 私も目標2校ということで中学校を統廃合したほうが良いと思います。あと教員の配置の確保がやはり心配です。教員の配置は各学年に決まっているとは思いますが、中一ギャップを考慮して中学校内部で調整して1年生に手厚く教員を配置して頂けないかと思えます。中学校の中で調整して教員を配置すればいいのではないかと思います。
- (小泉副会長) 頂いた資料に疑問があるのですが、クラブ状況について各校によって入っている割合、クラブ活動をしている割合が違います。これが善い悪いではなく、このことが先ほどクラブ活動は人間を成長させるための一つだという割には、このような状況でも良いのかどうかということです。北杜市内の中学校の部活動が県レベルにおいてどのような状況なのかを先に知りたいのですがわかりますか。
- (委員) その前に、実はクラブ活動に対する考え方の問題ですが、私の個人的な考えとしては生徒会活動の一環だと考えます。中学校のクラブ活動から一般のクラブに重点が移行してしまっている。今はクラブ活動自体が強制的ではなく、要するに入りたければ入るという雰囲気になってきている。その辺をできればクラブ活動の位置づけをしっかりとったほうが良いような気がします。これは教職員の配置の問題についての負担も含めて、クラブ活動のあり方に対する考え方が変わってきているのではないかと思います。
- (議長：小澤会長) 日本のスポーツの選手はだいたい学校で鍛えられ、その関係の大学や実業団に入ったり、プロになったり、オリンピックに出るといったようなシステムでしたが、最近はクラブ的な要素、特にサッカー等については学校教育の中にも入ってきました。かつての日本の学

校教育のような二本立てのものが崩れ始めているのが実情ではないかと思っています。事務局その点で何かありますか。

(事務局) 部活動ですが学校によっては大変差異があります。その一つの問題として、やはり教科教員が配置されますので、例えばバスケットに卓越した先生がいなければ、段々縮小していき最後には無くなるということも考えられます。ですから、例えばバスケットがしたくても教えてくれる先生がいなくとも一つの原因です。その中学校にいても好きな部活動がやっていない、やっていなければ帰宅部になってしまうということも考えられます。ですから条件がそろっていれば好きなどころへ昔は入れましたが、今は先生の関係、好きな部活動はしていないというようなことが部活動を継続できない理由の一つであると考えております。

(議長：小澤会長) それ以外にこの数字の中で、小泉副会長に指摘された背景には受験競争の結果があり、中学の場合にはクラブ活動で時間を取るよりも塾へというような方向がかなり最近では強くなってきていると思います。その善し悪しは別問題としてそういう傾向です。

—休憩—

(議長：小澤会長) 現在の国会等々での論議も、主要でないところで様々な論議が積み重ねられるために一向に前進しないということがあります。この審議会においての主要な問題は、北杜市の次代を担う子供達がどのように健全な形で成長できるのか、その環境作りを我々がどう考えて答申を出せるのかです。そして、それに伴う問題として今までの地域の様々な感情、その問題を次にどのように配慮して進めていくのかというように考えていかなければならないだろうと思います。そのような観点に立ちまして、皆さんの意見を聞いた上で、ある程度整理したステップでの御意見を頂ければありがたいと思います。

(委員) ある程度部活動が活発にできるほうがいいと思います。具体的に言いますと、明野、須玉、高根で1校、長坂、白州、武川で1校、小淵沢と大泉が1校で3校にしてはどうかと思います。明野、須玉、高根で約600人、長坂、白州、武川が約460人、小淵沢、大泉で約300人です。小淵沢と大泉ですと小さいですが小淵沢中学校を使わない訳にはいきません。まだ1年経っていません。小学校として使ってもかまわないわけですが、案として出してみました。

(委員) すみません。校名ですが、明野や須玉のような地域の名前ではなく番号か何かにして、できるだけ地域性、感情が入らないような形にしたほうがいいのかではないでしょうか。

(議長：小澤会長) 委員がおっしゃるとおり、これから北杜市を一本にまとめていく

わけですので知恵を絞って先行事例等を参考にしながら考えていかなければならないと思います。

(委員) ご参考までに、中国の古典や儒教の古典からとった校名も沢山ありますし、地名に拘らずどういう教育方針でということに付ける学校名もあるかと思えます。どういう人に育てたいかという地域の人、学校の先生の想いで付ける校名もあると思えます

(議長：小澤会長) その通りだと思います。他に御意見いかがでしょうか。

(委員) 教育効果、学習効果を考えた上で、それに加えて人間関係、生活環境などの点から、中学生になるとある程度体もしっかりしてきますし、通学距離等は問題にしなくてもいいのではないのでしょうか。そのなかで学校数を2から4という段階を踏んで、話の中で決めていってもいいのではないのでしょうか。

(委員) 名前の問題も絡めて気になったのは、例えば8校あるところを単純に4校にすると仮定し、とりあえず2校を一つにして、また3ないし2校になった時に、その5年なり6年にいた子供達は何かこちらサイドのことだけで動かされた、周りの環境だけで動かされた子供達が育ってしまうような気が若干します。一つブレない芯は北杜市の新しい地域作りを新しい中学校がして行くことだと思います。3年後にはこうなりますよという答申であれば子供達も納得し、父兄も納得できますが、いつになるかわからないものを一段階、二段階に分けるとするのは疑問が残ります。

(委員) 二段階にするとしても、何年後にはという目途を付けた上でないと無理だと思います。白州、武川の場合は10年後には19年の現状から言えば半分になってしまいますので、統合しても今の小規模校と同じような状態になってしまいます。ですからこのままの人口の状態だとすれば、白州、武川は一つになることはあり得ないわけです。それを一気にやるのか、一旦は白州と武川が一緒になって、5年後なら5年後に見直しをして3校ぐらいにしていくのかという問題だと思います。私個人の考えでは1段階あとではないかという気がします。革新的なことは今のところは言えません。できるだけ白州や武川の現在の状態は子供達のためには脱してあげたいという気持ちは持っています。

(議長：小澤会長) 白州中学校の校長として現場を経験している人の切実な声として、そういう問題を抱えているのですね。

(小泉副会長) ちょっといいのでしょうか。なんとなく皆さんを丸く収めるための妥協案としてはとてもいい気はしますが、段階を踏まなければならない理由はなんなのでしょうか。

(委員) 全体を2校や3校にするにはだいぶ向こうに行ってしまう気がします。22, 23年度ではない気がするのですがそういう言い方をした

のであって、世間の意見をなだめていくということではありません。それまで待てるどころと、待てないところがあるという意味です。

(委員) 副会長が言うのは段階を踏むのは無駄とすることですか？

(小泉副会長) 無駄ではなくそこを皆さんが避けているような気がしたのです。話し合いの中でそこを避けていて、そこを皆さんが飲み込んでいて言わないので二段階という言葉で濁しているのではないかという感じを受けました。

(委員) 段階的にと申し上げたのは8校を4校にして、それを2校にするという段階ではなく全体がまとまるまで、小規模校をそのままにするのではなくて、その前に統合するところがあってもいいのではないかという意味です。

(小泉副会長) 全体の段階ではなく、急を要するところについてということですね、よくわかりました。

(委員) 私はこのように考えます。北杜市にかつて500人規模の学校があったかと思いますが、ここ十数年でそれほど大規模であったことはありましたか。

(事務局) 30年ほど前はありました。

(委員) 10年後には1,000人強になるので2校でどうかという話もあります。実際に葦崎はそのくらいですが、そこまでするには結構本格的にしなければいけないと思います。財政的なことも考えると、隣接する学校を一つにして、それを練習という言葉は妥当ではありませんが、それで北杜市の中学校の教育を作っていく根っこをまず経験をし、積み重ねをしていきながら最終的にあるべき姿にしても良いのではないのでしょうか。現場を預かっている人間とすれば、突然ということであれば中1ギャップという問題もあり、経験したことがないことが突然来たとすれば対応できるかどうか心配なので、過渡的にいくつかのケースを想定し、段階的にというのはということなのかなと思いました。

例えば泉中、小淵沢中を統合する意見が出ましたが、その発想もあるとは思いますが大泉と小淵沢だと長坂が真ん中にあり、現状で言えば隔てられています。旧町村というのは気にしなくていいと言えそうですが、現状の小淵沢学区の子供達がどのような動向を示していくかということが結構大事なことではないかと思います。その子供達が相変わらず長坂中学校に行っていて、そこを横目で見ながら通り越して行くということもあることなのか、ないことなのかと思います。そうなってくると小学校を再編していくときの学区も充分考えていかなければならない、そちらにも連動していくと思います。そこまでうまく行けばいいということです。

あとは現場とすれば現状の中学校区というものを最初から分ける

という話がありますが、当分の間、初歩的な段階においては今あるものを活用してということで最初は考えて頂いて、それでもどうしようもないという場合には学区を考えて頂ければと思います。それは今言ったように小淵沢中、泉中が一緒になるということも発想の原点としてあるならば、そのことも考えていかなければと思います。

(議長：小澤会長) 前回で答申をまとめた小学校の通学区域とある程度図面的に重なり合うことを前提にして、今ある学校と学校を統廃合という単純な形ではなく、通学区域をある程度広域に絞って、この地域に1校というやり方をとっていかないと、様々な禍根を残す危険があるのではないかと感じております。そのようなことも併せて議論を深めて頂ければと思います。

(委員) 航空学園が使用している旧峡北高校の校舎にまとまれば新しく校舎を造らなくても教室数もありますし、可能な場合にはこの規模の統廃合がいいのではないかという考えもあります。あそこであれば北杜市全体で1校になっても入りきれないのでしょくか。

(議長：小澤会長) 全く度肝を抜かれるような、全く私の頭の範疇にない意見です。

(委員) 武川の分科会でそのような意見が出ました。あそこであれば、白州も武川も長坂もみんな一緒に出来るということで。

(議長：小澤会長) なるほど。

(委員) 小淵沢と大泉を統合してはどうかという意見もありましたが、町村合併ではありませんが、明野、須玉で340人、高根、大泉で400人、長坂、小淵沢で430人、白州、武川で200人、このような生徒数ではどうかと思います。将来的には生徒数の推移を見ますと4校から3校に絞っていかざるを得ないと思います。現状の施設、校舎、校庭を利用していかないと、新たに土地を求めたり、新たに校舎を造り直す財源はないと思います。

大泉と小淵沢となると長坂を飛び越えますので地域的にはうまくないと思います。それよりは長坂と小淵沢のほうがわかりやすく、小学校の通学区域も将来的には同じになるのかもしれない。

(委員) 私は具体的なことを申し上げましたが、いろいろ論議して参りまして、ある程度具体的に出せば議論は前進して行きますので、小淵沢と大泉が離れていることはありますが試案として出してみました。それによって今、4校にしたほうがいいのか1校でもいいのではないかという意見が出てきました。論議を進める意味で提案しましたので御理解願います。

(議長：小澤会長) 私も大胆なことは好きな人間ですが、市内を1校にするという発想は持っておりませんので度肝を抜かれました。段階的などという意見があって、それに対して小泉副会長のほうからそれは一つの逃げ的要素があるのではないかという率直な意見も出ました。これに対

しての反論もありました。そのなかで私は、平成29年度を目途にこの生徒数を考えますと3校から4校に絞らざるを得ないだろうと思います。場合によっては先ほどから出ているように、その先は2校に絞らなければならないだろうというところに来ていると思います。ただ、そこに向かって行くためには仕組み作りにどうしても時間がかかります。例えば先ほど意見が出ましたが、小淵沢中学校はこの間竣工したばかりで、明野中学校もまだ新しいです。国からの予算が入っていてそれを壊すということであれば、その補助金はたぶん何年間という期限の中で付いているもので返還しなければならないという問題が出てきます。教師の教科配当というのがどれだけ保証されるのか、それには最低限度生徒数が何人以上、何学級が一番望ましいのか。たぶん私の経験では2学級というのは大変な状態だろうと思います。10年後を目途にして3校から4校、その過程の中である程度見通せるならば、小規模学校はそれに対して対応を考えていくのが良いのではないかと考えます。ですから、段階論というのもやはりそういうシステム作りをきちんとしていく前提で考えていくようにしなければならないと思います。

(委員) 学校の先生方や事務局にお尋ねしたいのですが、中学の場合に現在1学年2クラスの学校が多いですが、現状においてどういう無理が生じているのか、逆に3クラスであったならばどれだけ無理なところが無くなるのかを把握したいので説明をお願いします。

(議長：小澤会長) 中学の先生がおりませんが、事務局どうでしょうか。

(教育長) 現状を把握した上でそれを参考に審議して頂けたらと思います。21年度についてのみデータを言いますと、15校の内11校は皆さんが結論を出しました適正規模以外です。73%は既に適正規模を割っているという現実が待っています。

中学校については9校ありますが、甲陵は定員制をとっていますので甲陵を除きますと、8校の半分、50%が適正規模を下回ります。これが21年度ですので、非常に火急であるということと言えます。

データが出ておりますので、例えば武川、白州を一つの段階としてという意見もありますが、27年度のデータを見てわかりますように合わせても111人です。ということは2校が一緒になっても、このデータで見ると既に適正規模を割っています。あくまでも子供達の教育環境を確保することが重要でございます。

中学校の場合は高根が今1番生徒数が多く、次が長坂ですがいずれも300人を割っています。これを考えてみると北杜市の中では大規模でしょうが、規模的には1学年2学級か3学級で、全学年がそろって3学級作れませんので、中規模と言うよりも全国的に見て

若干小規模ではないかと思えます。これも参考までにですが、中学校の場合は教科制ですので教科の先生がいないと無免許の教師が子供達を教えるという現実が出てきます。これはあまりにも教育上良くありませんので、定数があってもそのような現実が起こった場合には無免許解消職員を時間的に採用してクリアしています。例えば21年度、来年度の規模で高根中が1番多いですが、高根中でも定数の職員だけですと無免許教科がでます。ということは8校全てが無免許の発生する人数しか頂けません。甲陵については120人3学級ですのもっと少ないですが、美術や音楽等の教科は非常勤講師で無免許教科を解消しています。まもなく21年度が始まりますが、各学校長が1番頭を痛めているのはどの教科を無免許教科として申請するのかです。国語は絶対、数学は絶対という配当をしていきますと、定数が法で決まっていますので、各教科に配当1人、足りなくなった部分は美術で無免許にするのか技術とするのか家庭とするのかということになります。これは簡単に人数ではなくて国で決めた週当たりの時数がありますので、どうしても週当たりの時数が少ない音楽や美術、技術、家庭というのは時間的には切られてしまうことになります。決してそれが不必要ということではなく芸術的な教科も当然必要なことです。全てが主要教科ではありますが、どの教科を切るかということになると、一番指導の時間が少ない教科を切らざるを得ないという現実があります。従って21年度は目の前に来っていますが、高根中がそのような状態ですので全ての学校が県から頂く教員数では足りない為どの校長も如何に補充していくかという人捜しに苦慮しているという現状です。

(議長：小澤会長) おわかり頂けたでしょうか。これが学校教育を預かっている方達の1番悩みであり、生徒の教科をきちんと保証して行く事が非常に重たい責任があります。国には定数法というのがあり、その定数法に基づいて教師の配当が決まっています。これを受けて各県も定数法に基づいて配当しておりますが、どうしても凸凹がでますので県独自で県単という形で予算を持って若干補正してます。各市になればそれでも凸凹が出ますので、それを市の負担で補っているという仕組みになっているのが実情です。国の根幹の定数法を変えない限りは、末端ほど大変です。小規模校になればなるほど市の負担はとて大きくなります。先ほど小学校の適正規模を基に中学校を配置していけば、たぶん0.5の教師配当だろうと言いましたが1学年4クラスがあって始めて正規教員が時間的にはなんとか確保できるというように試算しています。子供達の適正な授業をしていくためにはどうしたら良いのかというと、29年度を目途に3校ないし4校、あるいは基本的には2校という数字も出ていましたが2校辺

りが一番適切な形になっていくだろうと思います。そこまで踏み込んでいけるのかというと、私は仕組み作りを考えるとかなり無理があるだろうと思います。その辺を数字的にも答申に出す場合には出していかなければなりませんので、皆さんの御意見をお願いします。

(事務局) 先ほど新しい校舎の国庫補助の問題がありました。国庫補助については20年6月付で10年以上経過したものについては返還しなくてもよく、10年未満のものについても地域再生計画を立てて学校の統廃合を計画した場合については返還しなくても良い、と通達がありますので御承知願いたいと思います。

(議長：小澤会長) わかりました。かなりその点については柔軟な通達ですね。それでは2校という数字も出ていますし、3校から4校という数字も出ています。その辺を目安に最終的にどのような、もちろん29年度を目安にしていることが前提ですが、事務局のほうで最終答申の骨格を述べてもらいまして、次回にこのことと併せてまとめをさせて頂くということにしていっていいのでしょうか。やはりこれだけ厚い問題です、ある程度数字的なものは出てきていますので一呼吸おいてもう一度審議させて頂きます。よろしいでしょうか。

(全委員) 了承。

(事務局) 皆様のお手元に答申案ということで目次だけあると思いますが、このような流れで答申をまとめて頂きたいと考えております。スケジュール的に次回は3月19日です。小学校の卒業式ですが、午後2時頃から答申案について議論をお願いします。当然答申案については会長、副会長と相談しながら素案を作成し皆さんに事前にお渡ししまして、審議会で議論して頂ければと思います。そこで議論されたものを、その後日程は未定ですが正副会長の手によって教育委員会に答申という形で3月末を迎えたいと考えておりますが如何でしょうか。

(議長：小澤会長) 私は今まで事務局と一度も打合せをせずにこの席に座ってやってきております。しかし、最終答申においては事務局と小泉副会長と3人で、ある程度皆さん方に提案できるような形のものと一緒にテーブルに着いて提案させて頂くようにさせて頂いていいのでしょうか。

(全委員) 了承。

(議長：小澤会長) それでは次回で事務局とテーブルに着かせて頂きます。そこで最後に確認しておきたいことは、通学区域について具体的な意見も出しましたが、私はやはり小学校の通学区域を議論した訳ですので、ある程度その図面と重ね合わせながら中学校の場合を、中学校のほうで広域になりますが検討したほうがいいのかと思います。そうした時に旧町村についてはある程度柔軟に複合的にさせて頂くことを前

提に詰めをさせて頂くように思います。いいでしょうか。

(全委員) 了承。

(議長：小澤会長) それではそういう形で事務局と詰めをさせて頂きます。何か他にありますか。

(委員) 目次の内容について質問ですが、小中学校の小規模化の現状とありますが、規模ではなく小規模にした意図がありますか。あと答申に向けて教育委員会が留意すべき事項とはどういう意味でしょうか。答申案は19日に突然出されても内容が見られませんので、どのくらい前に頂けるかの三点についてお伺いしたいです。

(事務局) まず1点目についてですが、学校の規模が小規模に減ってきているという現況を示したいと考えております。

(議長：小澤会長) では規模でもいいのではないのでしょうか。先ほど教育長がおっしゃったような現状でこのような状態だということ、北杜市全体が小規模ということですので。

(事務局) 現状を訴えたいということですので再度検討します。二点目ですがこれについては答申をこの審議会から受け、教育委員会として整備計画、具体的に何年度に何をするかということを行いますので、審議会の意見を尊重しながらこうしたいということをご記載したいということです。

(事務局) 答申に向かうではなく、受けてですので検討します。

(委員) 事務的なことですが、答申案を送って頂くときに作業の都合上紙と一緒にパソコンのファイルで頂くことが可能かどうかをお聞きしたいです。できれば希望者のみに送って頂ければと思います。

(事務局) わかりました。作成したものをFD・CDにしてという方はこの場で挙手して頂ければ一緒にお送りします。

(委員) 大変重要な審議会ですので、今日も市議会議員の方も傍聴にお見えですが、私も地元に戻って議員方からこの審議会の審議内容を照会があった場合説明してもよろしいでしょうか。

(議長：小澤会長) これは公開ですので、ぜひ事務局もいろいろな方法で市民に徹底して頂き、審議員の皆さん方も自信を持って問われたならば対応して頂きたいと思います。やはりこのような審議会ですので壁を作ってはいけない、市民との垣根を作ってはいけないと思いますのでその点についてよろしくお願ひします。

(委員) 一点いいでしょうか。私はコミュニティスクールのことで提案したいと思って、前々からいますが、その前に北杜市の教育委員会で準備、研究が進んでいるということも聞いております。それについて、もし研究が進んでいないのであれば、子供達にぜひ勧めたい、コミュニティスクールを提案したいと思ひますし、もし研究が進んでいるのであれば私の方から提案しないつもりでいるのですが、ど

の程度まで準備、研究が進んでいるのでしょうか。

(議長：小澤会長) この点について私は北杜市の教育委員会がどうやっているのかわかりませんが、私個人としては答申を出した後、会長を引き受けた者として考え方を提起したいと思っております。これからの北杜市の教育のあり方としてコミュニティスクール的なものをどのようにしていくのかということは、一応頭の中で整理して予定はしておりますが、教育委員会は如何ですか。

(事務局) 特にコミュニティスクールについてですが、まずは審議会(答申)の方をということで具体的な研究は進んでおりません。

(議長：小澤会長) それでは、そういうようなことも含めて最終回3月19日、小学校の卒業式と重なっていますが皆さん方万障繰り合わせの上、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。それでは最後副会長の方からお願ひします。

(小泉副会長) 皆さんお疲れ様でした。非常に慎重審議を頂きましてありがとうございます。振り返ればいろいろと議論して来ましたが、最後の締めにかけても、大局的な眼をもって進めて頂いて良かったかなと思ひます。またこれが決して3月答申というような形なのですが終わるということではなくて、ようやくスタートラインに立てるか立てないかという位の所だと思ひます。どうもお疲れ様でした。